

【事例5】特別支援教室（学習障害）

学校・学年	中学校・第1学年
障害の種類・程度や状態等	学習障害。板書の書き写しに時間がかかるなど、書字に困難さがあり、学習に対する自己肯定感が低い。

学校生活支援シート（個別の教育支援計画）

1 学校生活への期待や成長への願い(こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育てほしい、など)

本人から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと仲良く学校生活を送りたい。</li> <li>・漢字を正しく書けるようになりたい。思ったことや考えたことをちゃんと作文にしたい。</li> </ul>
保護者から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことが苦手なので、合理的配慮としてタブレットを活用させたい。</li> <li>・話をよく聞き、周りを見て行動できるようになってほしい。</li> </ul>

2 現在のお子さんの様子(得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことが苦手で、記入に時間がかかり、時間内にノートに写しきれない。</li> <li>・学習に関して自信がないが、パソコンのタイピングは早く、漢字の変換は正しくできる。</li> <li>・全体に対しての指示を聞き取ることが苦手で、指示や話の内容を聞き漏らすことがある。</li> <li>・学習だけでなく、いろいろなことに自信がもてない様子がある。</li> </ul>
---

3 支援の目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことに関する負担の軽減を図る。</li> <li>・本人が苦手だと考えていることを補う手段と一緒に考え、学校生活において代替手段を活用できるようにする。</li> <li>・全体への指示を本人にも確認し、周囲に合わせて行動できるようにする。</li> <li>・学習や学校生活全般において、本人が得意なことを生かして、成功体験を積み重ね、自己肯定感を高められるようにする。</li> </ul>	
学校の指導・支援	家庭の支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートやタブレット端末を使い、書字の負担軽減を図る。</li> <li>・一斉指示のあとに、個別に指示を確認し、聞き漏らさないようにする。</li> <li>・書字に代わる手段を、本人が進んで活用したり、本人が周りに合わせて行動できるようにしたりできるように、学級の生徒への理解啓発を図る。</li> <li>・自己肯定感が低下しないように、家庭と連携して、本人のよさを認める言葉掛けを多くする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話や連絡帳等で、学級担任、特別支援教室担任と連絡を取り、学校と家庭で連携しながら支援していく。</li> <li>・「できない」「やりたくない」等の発言を受け止め、本人の良い面を認めながら、前向きに取り組めるように、言葉を掛ける。</li> <li>・学級担任や学年だより等を通じて得た学校の情報を基に、家庭でも積極的に学校生活について話題にする。</li> </ul>

## 自立活動の「流れ図」

【特別支援教室】

学校・学年	〇〇中学校・第1学年
障害の種類・程度や状態等	学習障害(書字障害)
事例の概要	書字に代わる学習方法を身に付けるなど、本人が得意なことを生かした学習方法を身に付け、学習に取り組めるようにする指導事例

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

- ・形を整えて字を書くことが苦手である。板書を書き写すには、時間を要する。
- ・ゲームやパソコンに興味・関心が高く、知識もある。
- ・パソコンの操作は得意で、タイピングは早い。手書きでは、漢字を思い出すのに時間はかかるが、タイピングの時には、漢字を正しく変換できる。
- ・書字の代替手段として、少しずつタブレット端末を活用し始めたところである。
- ・一斉指示や相手の話を聞き逃すことが多く、同時に二つ以上のことを言われると聞き漏らすことがある。
- ・繊細で傷つきやすい性格で、人前で話すことが苦手である。
- ・感受性が強く、人の気持ちを思いやることができる。

- 1 収集した情報( )を「自立活動」の区分に即して整理する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> <li>・書字の代替手段としてタブレット端末を活用し始めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繊細で傷つきやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感受性が強く、人の気持ちを思いやることができる。</li> <li>・一斉指示を聞き逃し、周りに合わせて行動することが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形を整えて書くことが苦手。</li> <li>・板書の視写には時間を要する。</li> <li>・手書きだと漢字を思い出すのに時間がかかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイピングは早い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同時に二つ以上のことを言われると聞き漏らすことがある。</li> <li>・人前で話すことは苦手。</li> </ul>

- 2 収集した情報( )を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

- ・学習においては、書きの困難があり、板書が写しきれなかったり、宿題に時間がかかったりする。
- ・書くことの心理的な不安や作業負担から、学習内容が十分に身に付いておらず、学習意欲が低下している。
- ・一斉指示を聞き逃してしまうことを要因の一つとして、集団に合わせて行動することが難しい。
- ・パソコンやタブレット端末の使い方は理解しているが、人目を気にして、十分な活用には至っていない。

- 3 収集した情報( )を卒業後の姿の観点から整理する段階

- ・将来社会に出た時には、パソコンやタブレット端末等の情報機器を、書字や聞き取りの困難さを補う手段として使用するに抵抗感はなくなると考えられる。
  - ・本人自身が、将来は、タブレット端末があれば、書くことが苦手でも何とかやっていけそうだと考えている。
- <将来に向けて必要と考えられること>**
- ・自分の苦手なことを理解し、困難さを補う手だてを知ること。
  - ・書字や、指示等を聞き取ることの困難さに対する代用・補足の手段の活用ができるようになること。
  - ・書字の負担を軽減するとともに、必要な場面では、整った字を書けるようにすること。
  - ・周囲の人に、配慮してほしいことを説明できるようになること。

を基に - 1、 - 2、 - 3で整理した情報から課題を抽出する段階
<ul style="list-style-type: none"> <li>・書字に関する心理的負担及び作業の負担の軽減を図ることで、必要とされる場面では、整った字が書けるようになる必要がある。</li> <li>・タブレット端末等、ICT 機器を書字の代用手段として活用できるよう、習熟を図る必要がある。</li> <li>・学力不振による学習意欲や自己肯定感の低下が、学習以外の生活上のことについても意欲や自信の低下につながっている。</li> </ul>

で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことが苦手である特性に加え、聞き漏らしてしまうことがあるという実態がある。学習面での自信のなさ、自己肯定感の低下につながったと考えられる。生活面においても自信をもてないことが多い。</li> <li>・学習上、生活上の困難の改善・克服には、書くことを補う手段の活用を促し、集中できる時間の伸長、作業に要する時間の短縮化を図る必要がある。</li> <li>・学習上の困難の改善を図ることで、学習面、生活面における自信を少しずつ向上させ、前向きな姿勢で学校生活を送れるようになると考えられる。</li> </ul>

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として	に基づき設定した指導目標を記す段階
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に合った学習方法を学び、学校生活の中で実践することができる。</li> <li>・書字に代わる方法を身に付け、学習への意欲を高めて取り組めるようになる。</li> <li>・自己理解を育み、自己肯定感を高めることで、前向きな姿勢で対応する力を付ける。</li> </ul>

指導目標を達成するために必要な項目の選定	を達成するために必要な項目を選定する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(3)自己の理解と行動の調整に関すること	(2)環境や認知の特性についての理解と対応に関すること (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること

項目と項目を関連付ける際のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に合った学習方法を学び、学校生活の中で実践するために、健(4)、環(2)(3)、身(5)、コ(4)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、アである。</li> <li>・書字に代わる学習方法を身に付け、学習への意欲を高めるために、人(3)、環(2)(3)、身(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、イである。</li> <li>・自己理解を育み、自己肯定感を高めることで、前向きな姿勢で対応する力を付けるために、健(4)、心(3)、環(2)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、ウである。</li> </ul>

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	具体的な指導内容を設定する段階		
	ア	イ	ウ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことと併用して、タブレット等 ICT 機器を学習場面で活用できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の得意なことを生かして、書字を補う手段を身に付ける。</li> <li>・学習での成功体験を重ね、学習への意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解を育む学習により、得意、不得意を本人が認められるようにする。</li> </ul>

## 個別指導計画

令和 年 月 日作成

【通常の学級】

作成者( )

<b>生徒名</b>	1 年 ○組		
<b>学校名</b>	○○中学校	<b>校長名</b>	○○ ○○
<b>年間目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことに関する負担の軽減を図り、学習意欲を高めて学習に取り組めるようになる。</li> <li>・個別の指示を少しずつ減らし、全体への指示で集団に合わせた行動できるようになる。</li> <li>・学習や学習以外のことにも、前向きな姿勢で取り組めるようになる。</li> </ul>		

### 本人・保護者の願い

- (本人) ・友達と仲良く学校生活を送りたい。  
 ・漢字を正しく書けるようになりたい。思ったことや考えたことをちゃんと作文にしたい。
- (保護者) ・書くことが苦手なので、合理的配慮としてタブレットを活用させたい。  
 ・話をよく聞き、周りを見て行動できるようになってほしい。

### 生徒の実態及びこれまでの経過

### 連携外部機関

- |   |                       |
|---|-----------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・書く作業の負担を感じ、板書を写すのに時間がかかり、時間内にノートに写しきれない。</li> <li>・学習内容の理解が不十分で、学習に対する意欲と自己肯定感が低い。</li> <li>・パソコンを使ったタイピングが早くできる。</li> <li>・一斉指示での聞き逃しがあり、周りに合わせて行動することが難しい。</li> </ul> | 教育センター<br>○○病院<br>○○塾 |
|---|-----------------------|

	指導目標	支援・手立て	指導の経過及び評価
<b>学習面</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書く作業の負担を軽減し、学習内容に集中できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書を書き写す部分を調整し、書く時間を十分に確保する。</li> <li>・ワークシートには、十字リーダーを入れたり、書きやすいサイズのマス目を表示したりして、字を整えて書けるようにする。</li> <li>・タブレット端末を学習中に使用できるよう環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書字の負担が減ったことで、集中して授業に参加できるようになってきた。</li> <li>・理科や社会科で少しずつタブレット端末の活用を始めた。</li> </ul>
<b>集団生活</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任や友達の言葉掛けで、周りに合わせて行動できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体指示に続いて個別に指示をする。</li> <li>・学級の生徒に対し、本人と一緒に、特性等についての理解啓発を行い、学級全体で支援できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期の始めは、個別に指示を行ったが、周りの生徒が、行動を促しており、本人も友達からの関わりを受け入れ、周りに合わせて行動できるようになってきた。</li> </ul>
<b>その他</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が得意だと思っていることをほめたり、できたことを即時に評価したりして、自己肯定感を高められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイピングや体育など得意なことを中心に認める言葉掛けをした。友達から褒められたことが嬉しかったと本人が振り返っていた。</li> </ul>

### 生徒の変容と引継ぎ事項

- ・一部の授業では、タブレット端末を活用した学習方法が定着してきた。
- ・書く分量の調整等をしながら、書くこととタブレット端末を使用とを併用していけるようにする。
- ・自己肯定感を低下させないよう、引き続き本人の得意なことやできたことを褒めて伸ばしていく。

## 【特別支援教室】

作成者( )

生徒氏名		在籍	〇〇中学校 1年〇組 (担任: 〇〇 〇〇)
保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことが苦手なので、合理的配慮としてタブレット端末を活用させたい。</li> <li>・話をよく聞き、周りを見て行動できるようになってほしい。</li> </ul>		
長期目標(年間)	自分に合った学習方法を学び、学校生活の中で実践することができる。 書字に代わる学習方法を身に付け、学習内容に集中して取り組めるようになる。 自己理解を育み、自己肯定感を高めることで、前向きな姿勢で対応する力をつける。		

## 通室回数・時数(略)

## 1学期

短期目標(学期)		
1学期	状況に応じて、タブレット端末などのICT機器を活用する方法を身に付ける。 自己の特性を理解し、自己肯定感を高める。	
指導内容	手立て	指導の経過及び評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の得意なことを生かして、書字を補う手段を身に付ける。</li> <li>・書くことと併用して、タブレット等ICT機器を学習場面で活用できるようにする。</li> </ul> <p>自己理解を育む学習により、得意、不得意を本人が認められるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別学習でタブレット端末を使用し、カメラ機能や文字入力機能を活用して学習する。活動前に、ポイントや、効率的に活用する方法を本人が考える時間を設定する。</li> <li>・漢字を正しく書くために、特徴や覚えるポイントが分かる視覚支援教材を取り入れる。作文のテーマを自分で選択できるようにし、書く意欲をもって取り組めるようにする。キーボードで作文の内容を入力できるようにする。</li> </ul> <p>実際の学校生活を想定した場面を設定して考えられるようにする。自分の良いところを見付けられるような肯定的な言葉掛けをする。様々な考え方があることを提示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視写することに代えて、板書等をカメラ機能を使って保存した。学習の振り返りがしやすいように、教科や日付ごとに整理して、フォルダーに保存できた。</li> <li>・形の特徴だけでなく、熟語や文例を確かめ、振り返りカードに短い文章を書いたり、作文のテーマを書いたりした。作文のテーマを決め、書くこととキーボードによる入力を併用しながら、取組んだ。タイピングが早くなり、漢字変換も的確であった。書字の作業負担が軽減され、作文の内容を考えることに時間を使うことができた。</li> </ul> <p>教科学習における得手不得手だけでなく、自分の性格や特性を知ることによって、長所にも気付くことができた。</p>
特別支援教室より		
<p>特別支援教室では、授業で活用できそうなタブレット端末のアプリを確認した。在籍学級では、板書の撮影から使い始め、授業中に実践した。</p> <p>今後も、「自分の得意なことで苦手なことを補うこと」、「自分の苦手を知り、困った時は周りの人に助けを求められること」を目標に、自己肯定感が低下しないように配慮しながら、支援を依頼する方法を身に付けられるようにする。</p>		

## 連携型個別指導計画

( 1 学期 )

学校・氏名	立 中学校 1年		
在籍学級担任	〇〇 〇〇	特別支援教室担当	〇〇 〇〇
記載者	〇〇〇〇、〇〇〇〇	作成日	令和 年7月 日

### 主な指導目標（長期目標）

在籍学級での目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>○書字の負担を減らし、集中して授業に参加することができる。</li> <li>○自己肯定感を高め、前向きに学校生活を送る。</li> </ul>
特別支援教室での目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分に合った学習方法を学び、日常生活で実践することができる。</li> <li>○書字に代わる学習方法を身に付け、学習への意欲を高めて取り組めるようにする。</li> <li>○自身の特性を知り、自己肯定感を高めることで、前向きな姿勢で対応する力を付ける。</li> </ul>

### 主な指導目標に関する短期目標と手だて及び評価

在籍学級			
指導期間：令和 年 4 月～令和 年 7 月		評価日：令和 年 7 月 日	
短期目標	書字の負担を減らすことで、集中して授業に参加できる時間を伸ばす。自己肯定感を高める。	評価	書字の負担が減り、集中して参加できるようになってきた。理科や社会科の授業から、タブレットの活用を始めた。タイピングや体育など得意なことを中心に認める言葉掛けをした。学習以外のことでも自信がもてるように、生活の中でできたことも褒める。
手だて	書く分量の調整や時間を確保する。ワークシートには、十字リーダーを入れたり、書きやすいサイズのマス目を表示したりする。タブレット端末を学習中に使用できるよう環境を整える。 本人が得意としていることやできていることを褒める。		

特別支援教室			
指導期間：令和 年 4 月～令和 年 7 月		評価日：令和 年 7 月 日	
短期目標	状況に応じて、タブレット端末などの ICT 機器を活用する方法を身に付ける。自己理解を促し、自己肯定感を高める。	評価	視写することに代えて、板書等をカメラ機能を使って保存した。学習の振り返りがしやすいように、教科や日付ごとに整理して、フォルダーに保存できた。形の特徴だけでなく、熟語や文例を確かめ、振り返りカードに短い文章を書いたり、作文のテーマを書いたりした。作文のテーマを自分で決め、書くこととキーボードによる入力を併用しながら、取り組んだ。タイピングが早くなり、漢字変換も的確であった。書字の作業負担が軽減され、作文の内容を考えることに時間を使うことができた。教科学習における得手不得手だけでなく、自分の性格や特性を知ること、長所にも気付くことができた。
手だて	タブレット端末を活用して学習する。活動前に、ポイントや、効率的に活用する方法を本人が考える時間を設定する。正しく書くために、特徴や覚えるポイントが分かる視覚支援教材を取り入れる。キーボードで作文の内容を入力できるようにする。 実際の学校生活を想定した場面を設定して考えられるようにする。自分のよいところを見つけていけるような肯定的な言葉掛けをする。様々な考え方があることを提示する。		

総合的な所見
板書を撮影するなどタブレット端末を活用して学習することが定着し始めている。今後も、自分の得意なことで苦手なことを補うなど、書くことや学習面できることを増やし、自己肯定感を高め、意欲をもって取り組めるようにする。